

神奈川縣農桑誌



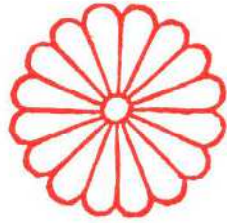




神奈川縣震災誌



10406



御沙汰書 詔書

詔書

朕神聖ナル祖宗ノ洪範ヲ紹キ光輝アル國史ノ成跡ニ鑑ミ皇考中興ノ宏謨ヲ繼承シテ肯テ愆ヲサラムコトヲ庶幾シ夙夜兢業トシテ治ヲ圖リ幸ニ祖宗ノ神祐ト國民ノ協力トニ賴リ世界空前ノ大戰ニ處シ尙克ク小康ヲ保ツヲ得タリ

奚ソ圖ラム九月一日ノ激震ハ事咄嗟ニ起リ其震動極メテ峻烈ニシテ家屋ノ潰倒男女ノ慘死幾萬ナルヲ知ラス剩ヘ火災四方ニ起リテ炎燄天ニ冲リ京濱其ノ他ノ市邑一夜ニシテ焦土ト化ス此ノ間交通機關杜絶シ爲ニ流言蜚語盛ニ傳ハリ人心洶々トシテ倍々其ノ慘害ヲ大ナラシム之ヲ安政當時ノ震災ニ較フレハ寧ロ凄愴ナルヲ想知セシム朕深ク自ラ戒慎シテ已マサルモ惟フニ天災地變ハ人力ヲ以テ豫防シ難ク只速ニ人事ヲ盡シテ民心ヲ安定スルノ一途アルノミ凡ソ非常ノ秋ニ際シテハ非常ノ果斷ナカルヘカラス若シ夫レ平時ノ條規ニ膠柱シテ活用スルコトヲ悟ラス緩急其ノ宜ヲ失シテ前後ヲ誤リ或ハ個人若ハ一會社ノ利益保障ノ爲ニ多衆災民ノ安固ヲ脅スカ如キアラハ人心搖動シテ底止スル所ヲ知ラス朕深ク之ヲ憂惕シ旣ニ在朝有司ニ命シ臨機救濟ノ道ヲ講セシメ先ツ焦眉ノ急ヲ拯フテ以テ惠撫慈養ノ實

ヲ舉ケムト欲ス
抑モ東京ハ帝國ノ首都ニシテ政治經濟ノ樞軸トナリ國民文化ノ源泉
トナリテ民衆一般ノ瞻仰スル所ナリ一朝不慮ノ災害ニ罹リテ今ヤ其
舊形ヲ留メスト雖依然トシテ我國都タルノ地位ヲ失ハス是ヲ以テ其
ノ善後策ハ獨リ舊態ヲ回復スルニ止マラス進ンテ將來ノ發展ヲ圖リ
以テ巷衢ノ面目ヲ新ニセサルヘカラス
惟フニ我忠良ナル國民ハ義勇奉公朕ト共ニ其ノ慶ニ賴ラムコトヲ切
望スヘシ之ヲ慮リテ朕ハ宰臣ニ命シ速ニ特殊ノ機關ヲ設定シテ帝都
復興ノ事ヲ審議調査セシメ其ノ成案ハ或ハ之ヲ至高顧問ノ府ニ諮ヒ
或ハ之ヲ立法ノ府ニ謀リ籌畫經營萬遺算ナキヲ期セムトス
在朝有司能ク朕カ心ヲ心トシ迅ニ災民ノ救護ニ從事シ嚴ニ流言ヲ禁
遏シ民心ヲ安定シ一般國民亦能ク政府ノ施設ヲ翼ケテ奉公ノ誠悃ヲ
致シ以テ興國ノ基ヲ固ムヘシ朕前古無比ノ天殃ニ際會シテ卹民ノ心
愈々切ニ寢食爲ニ安カラス爾臣民其レ克ク朕カ意ヲ體セヨ

御名 御璽

攝政名

大正十二年九月十二日

詔書

朕惟フニ國家興隆ノ本ハ國民精神ノ剛健ニ在リ之ヲ涵養シ之ヲ振作シテ以テ國本ヲ固クセサルヘカラス是ヲ以テ先帝意ヲ教育ニ留メサセラレ國體ニ基キ淵源ニ遡リ皇祖皇宗ノ遺訓ヲ掲ケテ其ノ大綱ヲ昭示シタマヒ後又臣民ニ昭シテ忠實勤儉ヲ勸メ信義ノ訓ヲ申ネテ荒怠ノ誠ヲ垂レタマヘリ是レ皆道德ヲ尊重シテ國民精神ヲ涵養振作スル所以ノ洪謨ニ非サルナシ爾來趨向一定シテ效果大ニ著レ以テ國家ノ興隆ヲ致セリ朕即位以來夙夜兢兢トシテ常ニ紹述ヲ思ヒシニ俄ニ災變ニ遭ヒテ憂悚交々至レリ

輓近學術益々開ケ人智日ニ進ム然レトモ浮華放縱ノ習漸ク萌シ輕佻詭激ノ風モ亦生ス今ニ及ヒテ時弊ヲ革メスムハ或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル況ヤ今次ノ災禍甚タ大ニシテ文化ノ紹復國力ノ振興ハ皆國民ノ精神ニ待ツチャ是レ實ニ上下協戮振作更張ノ時ナリ振作更張

ノ道ハ他ナシ先帝ノ聖訓ニ恪遵シテ其ノ實效ヲ舉クルニ在ルノミ宜ク教育ノ淵源ヲ崇ヒテ智德ノ竝進ヲ努メ綱紀ヲ肅正シ風俗ニ匡勵シ浮華放縱ヲ斥ケテ質實剛健ニ趨キ輕佻詭激ヲ矯メテ醇厚中正ニ歸シ人倫ヲ明ニシテ親和ヲ致シ公德ヲ守リテ秩序ヲ保チ責任ヲ重シ節制ヲ尙ヒ忠孝義勇ノ美ヲ揚ケ博愛共存ノ誼ヲ篤クシ入リテハ恭儉勤敏業ニ服シ産ヲ治メ出テテハ一己ノ利害ニ偏セスシテ力ヲ公益世務ニ竭シ以テ國家ノ興隆ト民族ノ安榮社會ノ福祉トヲ圖ルヘシ朕ハ臣民ノ協翼ニ賴リテ彌々國本ヲ固クシ以テ大業ヲ恢弘セムコトヲ冀フ爾臣民其レ之ヲ勉メヨ

御名 御璽

攝政名

大正十二年十一月十日

攝政宮 御沙汰

今回稀有ノ大地震東京及近縣ヲ襲ヒ之ニ加フルニ大火
ヲ以テシテ其ノ慘害甚タ大ナルハ實ニ國家生民ノ不幸
ナリ予ハ其ノ實況ヲ見聞シテ日夜憂戚シ殊ニ罹災者ノ
境遇ニ對シテハ心深ク之ヲ傷ム茲ニ内帑ヲ頒チテ其ノ
苦痛ノ情ヲ慰メント欲ス官民其レ協力シテ適宜應急ノ
處置ヲ爲シ以テ遺憾ナキヲ期セヨ

大正十二年九月四日

緒言

大正十二年九月一日の大地震は、倏忽として、一府六縣の廣汎に涉り、凄愴極る災厄を齎し、許多の財寶と生靈とを烏有に歸せしめたり。就中、我が神奈川縣は、震源地に近く、震動極めて峻烈に、之に次ぐに劫火を以てせる處あり、其慘害の影響は、眞に驚くべき損害統計を示せり。蓋し不測の大禍難にして、人力の如何ともすべき所に非ずと雖も、災禍の範圍を縮狭し、救濟の道をして遺算なからしむるは、人事の敢て能くする所なり。即ち縣は、嚴に流言を禁遏し、民心を安定し、政府の施設を翼け、震災詔書の意を體し、奉公の誠悃を續けて、縣治復興の基を固むる事を得たり。

此災害應急の處置、救護復舊の委曲を記録して、對災處務上萬一の日の参考に資するは、古來の成例なり。夙に、縣は、震災誌編纂委員を置き、笹川種郎、藤澤衛彦、其他の諸員をして専ら之に當らしめ、茲に此書を成すを得たり。其各項記事の詳略は、資料蒐集委員の報告繁粗一ならざりしに據るゝ雖も、委員の多くは、救護復舊事務鞅掌の旁、資料蒐集に努力せるもの其苦心又尋常にあらず。庶くは、當時慘悽の光景を目覩し、引續き復舊復興に努力したる跡の生ける記録として、本稿も、亦異日の考覈に資するに足るものあらん歟。

昭和二年九月

神 奈 川 縣

神奈川縣震災誌

目次

詔書

御沙汰書

緒言

口繪 (寫真)

目次

本文

第一章 概説

- 一、被害と應急施設…………… 一
- 二、警備状況…………… 一〇
- 三、傷病者の救療…………… 一五
- 四、社会事業施設の被害と其救済…………… 四二
- 五、工業方面の被害…………… 七四

第二章 横濱市

- 一、一斑状況…………… 一〇一
- 二、加賀町方面…………… 一〇五
- 三、山手本町方面…………… 一〇七
- 四、伊勢佐木町方面…………… 一〇八
- 五、壽町方面…………… 一一〇
- 六、戸部方面…………… 一一三
- 七、神奈川方面…………… 一二七
- 八、水上方面…………… 一二九

九、被害調	三三
十、救護物品の到着	一五四
十一、外國貿易概況	一六六
十二、震災前後の現物生絲商況	一七三
第三章 復舊狀況	一七九
一、金融機關の復舊	一七九
二、工場の復舊狀況	一〇五
第四章 救援活動の經過	一三六
一、警備救護と避難救護	一三六
二、人心安定に關する措置	一三三
三、警備諸機關の聯絡	一三三
四、罹災地警察力の充實	一三四
五、在郷軍人會の活動	一三六
第五章 配給狀況及配給表	一四五
第六章 震災に因る市町村財政の狀況	一五四
第七章 土木の損害	一八五
一、道路の被害	一八五

二、道路擴張に至るまで	二九一
三、橋梁の被害	三〇七
四、震災に因る河海及水路の潰裂	三一
五、砂防の被害	三九
第八章 教育上の損害と其復舊	三二
第九章 産業の損害と其復舊	三六
一、震災に因る畜産の被害	三八
二、蠶絲業震災誌	三九
三、産業組合震災誌	四一
四、農業倉庫震災誌	四二
五、遭難肥料と其當時に於ける需要供給概要	四三
六、農業方面震災調	四四
七、震災復舊善後策	四〇
八、副業	四〇
九、被害耕地の整理と其地區	四四
第十章 町村別損害調	四七
第十一章 横須賀市	五三

一、被害状況と市役所の執りたる緊急處置	五三三
二、横須賀鎮守府の執りたる緊急處置	五四四
三、土木建築方面	五五五
四、産業方面の損害	五五八
五、戒嚴間の交通復舊作業	五五九
六、財政整理に及ぼせる震災の影響と其歳入減及損害	五三二

第十二章

久良岐郡

一、被害状況と緊急措置	五三六
二、罹災者並罹災住屋非住屋の損害	五三七
三、土木建築方面の被害状況	五四〇
四、産業方面の被害状況	五四五
五、山林方面の被害状況	五五〇
六、教育方面の被害状況	五五〇
七、社寺名所舊蹟天然記念物の被害	五五〇
八、財政に及ぼせる震災の影響と其整理	五五一

第十三章

橘樹郡

一、郡下の被害と緊急措置	五五三
--------------	-----

二、産業方面の被害状況……………五七
三、川崎市の財政に及ぼせる震災の影響と其整理……………五八五

第十四章 都筑郡……………五八六

一、被害状況と緊急措置……………五八六
二、土木方面の被害状況……………六〇〇
三、産業及山林方面の被害状況……………六〇八

第十五章 三浦郡……………六〇六

一、被害状況及緊急措置……………六〇六
二、産業及山林方面の被害状況……………六二二
三、財政に及ぼせる震災の影響と其整理……………六三五

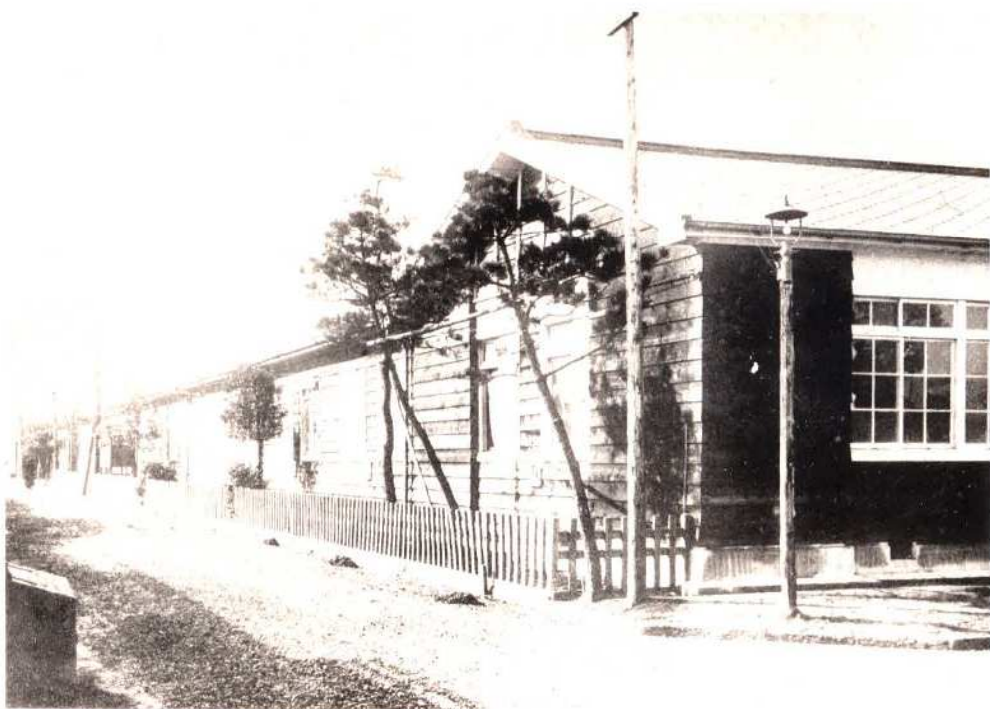
第十六章 鎌倉郡……………六二八

一、鎌倉町の被害……………六二八
二、神社佛閣及藝術品の被害……………六三二
三、其他町村の被害……………六三三
四、緊急措置……………六三六
五、各方面の被害状況……………六四二
六、復舊状況……………六五〇

第十七章 高座郡	六五三
一、郡下の損害及其應急措置	六五三
二、各方面に及ぼしたる被害状況	六六七
三、財政に及ぼせる震災の影響と其整理	六九二
第十八章 中 郡	六九三
一、被害状況と應急措置	六九三
二、各方面に及ぼしたる被害状況	六九八
第十九章 足柄上郡	七〇七
一、被害状況と應急措置	七〇七
二、各方面に及ぼしたる被害状況	七一〇
三、財政に及ぼせる震災の影響と其整理	七二〇
第二十章 足柄下郡	七二二
一、郡下の被害と其應急措置	七二二
二、各方面に及ぼしたる被害状況	七四二
第二十一章 愛甲郡	七五五
一、被害状況と應急措置	七五五
二、土木方面被害状況	七六四



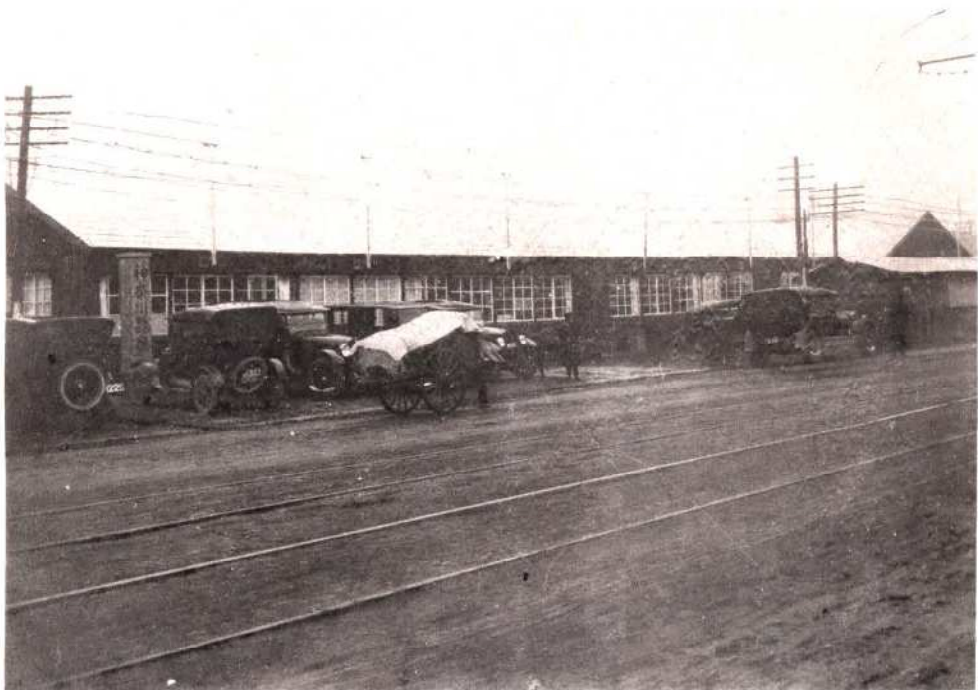
神奈川縣廳在廳舍正門



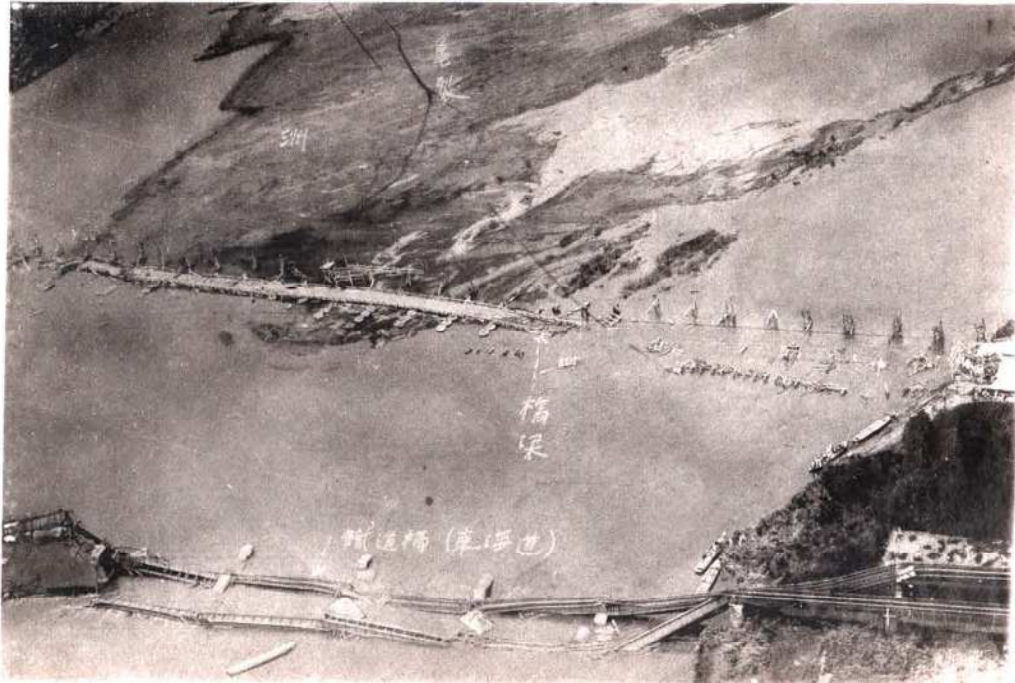
神奈川縣廳在廳舍側面



(部内) 廳縣川奈神るせ失焼



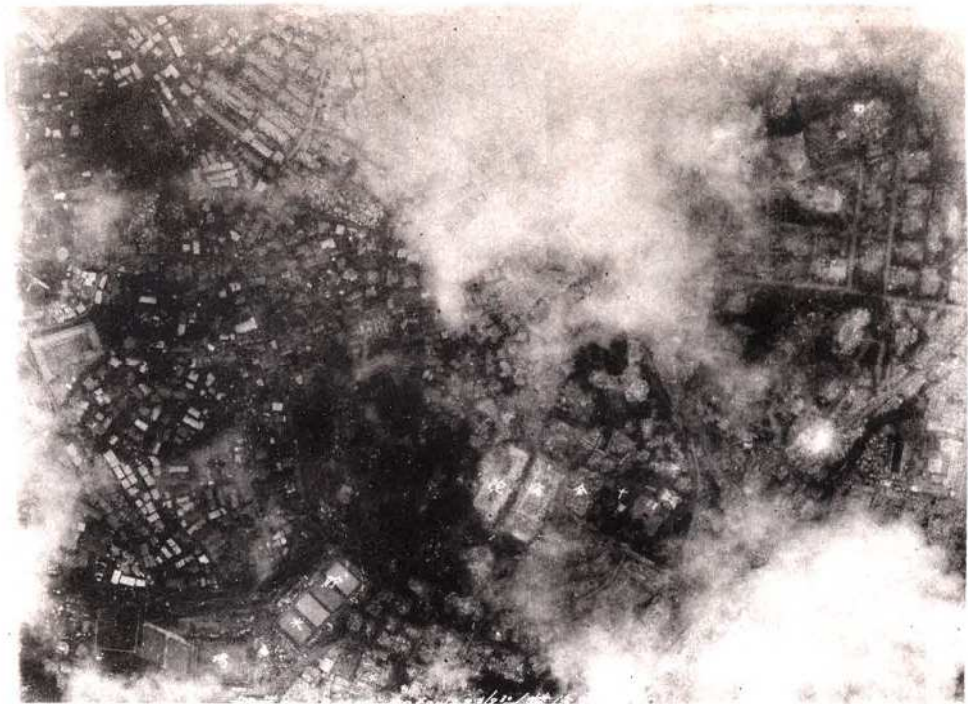
廳縣川奈神の建クツラバるけ於に後直災震



飛行機の上より見た馬入川沿岸の大亀裂と橋の墜落



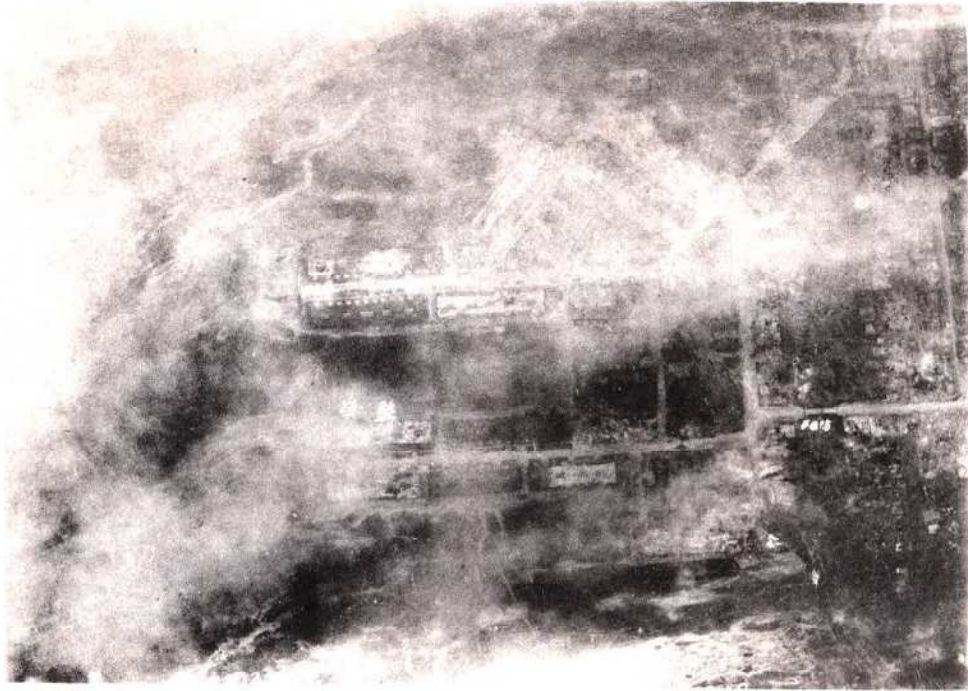
横濱足曳町の地割れ



市濱横るたれは舞見に火劫
近附場水貯るセ影撮りよ上機行飛 (一)



市濱横るたれは舞見に火劫
近附ンサグンジイラるた見りよ上機行飛 (二)



市濱横るたれは舞見に火劫
近附壁岸岸海るた見りよ上機行飛 (三)



市濱横るたれは舞見に火劫
近附岸海るせ影撮りよ上機行飛 (四)



横濱市慘害全景



神奈川県廳及稅關附近の燒跡



櫻木町驛の惨状



横濱驛の惨害



横濱吉田町よりの野毛山方面の惨状



横濱吉田橋の惨状



横濱眞金町附近の惨状



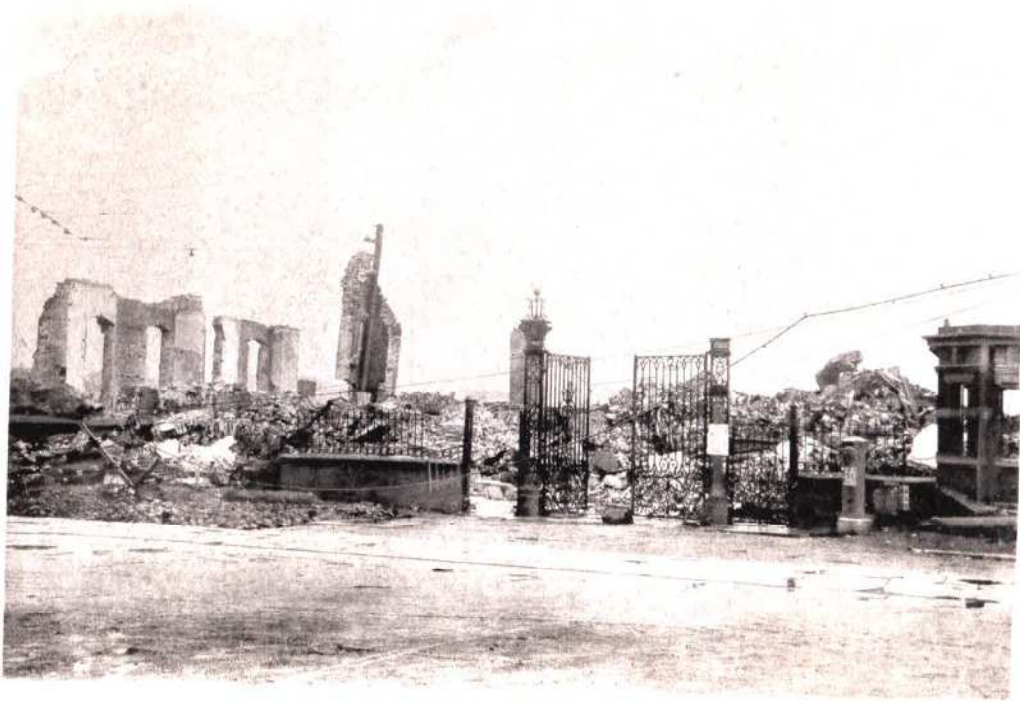
横濱市馬車道通の惨状



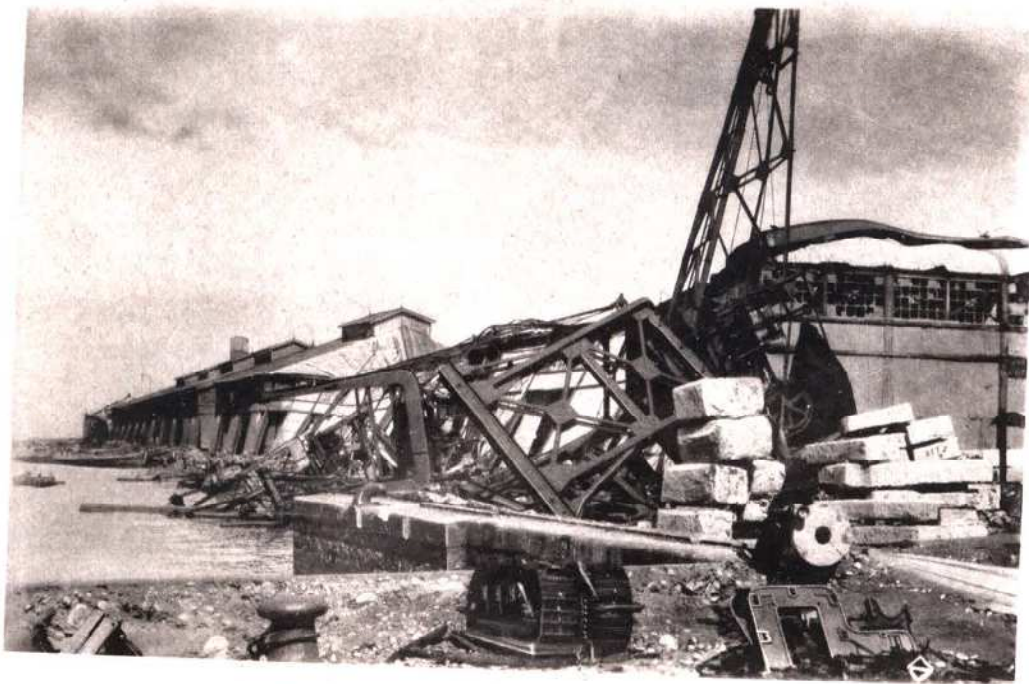
廻轉せる横濱井伊掃部頭銅像



吉濱町海員掖濟會跡



横濱關稅入口よ見たる地震火災の慘狀



九月二十五日横濱關稅



橫濱棧橋附近慘狀



橫濱阜頭慘狀



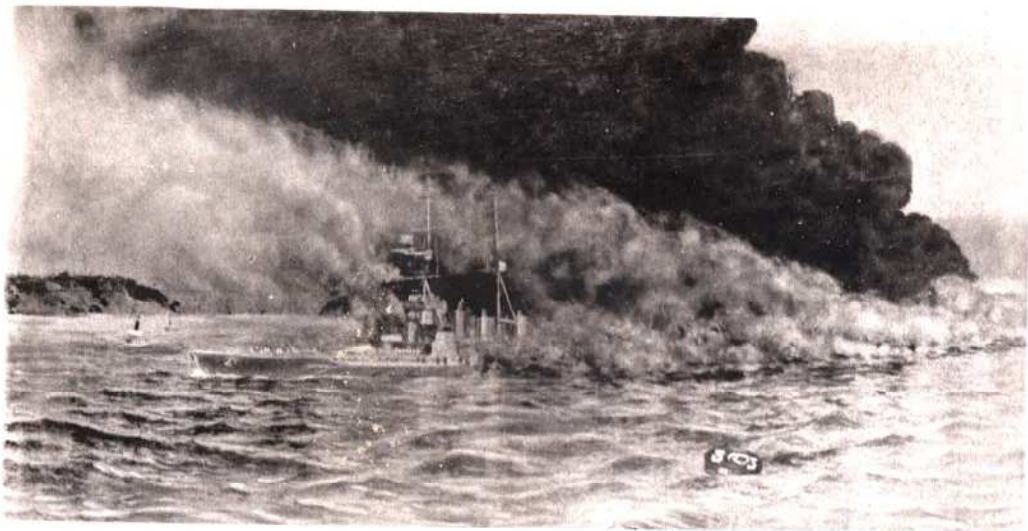
横濱棧橋の惨状



（大正二十二年十二月三十日現狀）棧橋復興



横須賀市諏訪公園よりの全壊した市の惨状



横須賀軍港に於ける油火の災に罹りし軍艦名避難出港の状況



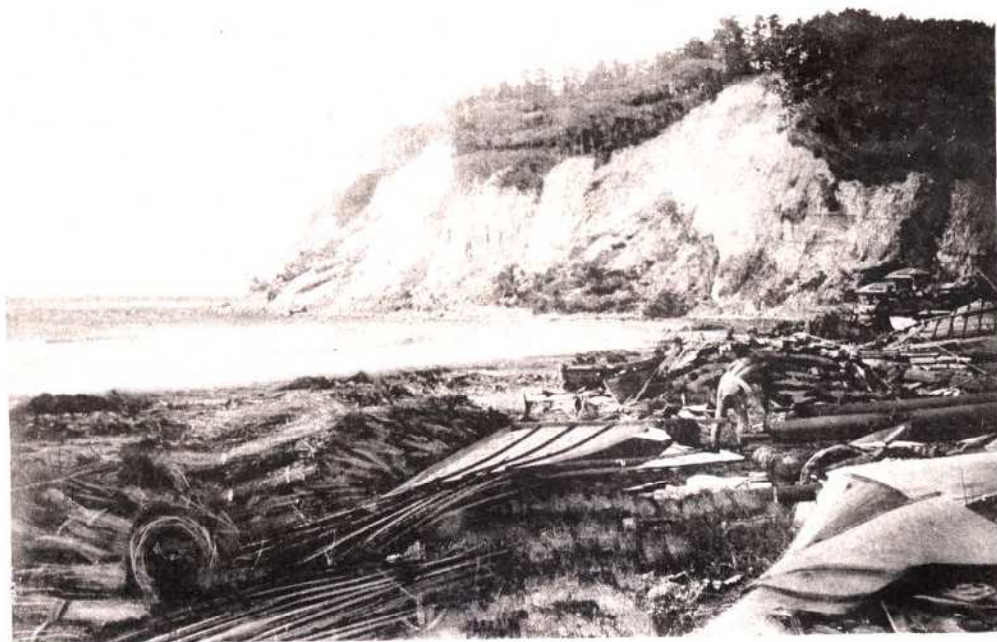
一號國道松並木の被害



墜落せる縣道戸塚大船線高嶋橋



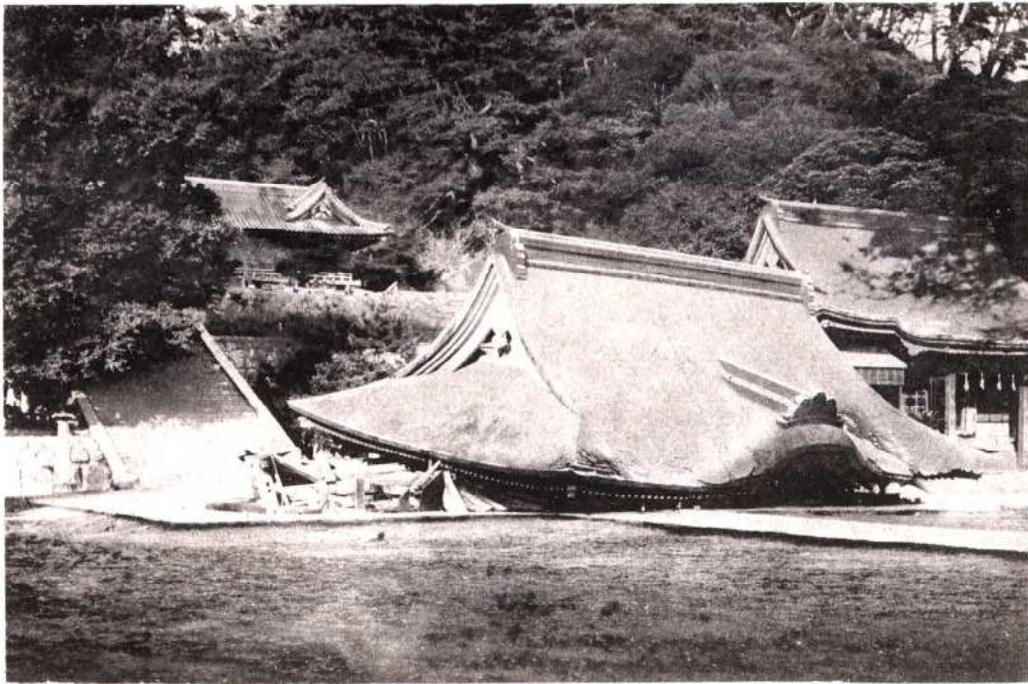
跡の來襲嘯海濱ヶ里七



況状の後嘯海面方下の坂るた見りよ崎ヶ村稻



長谷大佛の揺り出し（一尺五寸陥没し約一尺前方に送り出せるが佛像には異状なし）



殿拜宮幡八倉鎌るせ壊倒



倒壊せる藤澤遊行寺



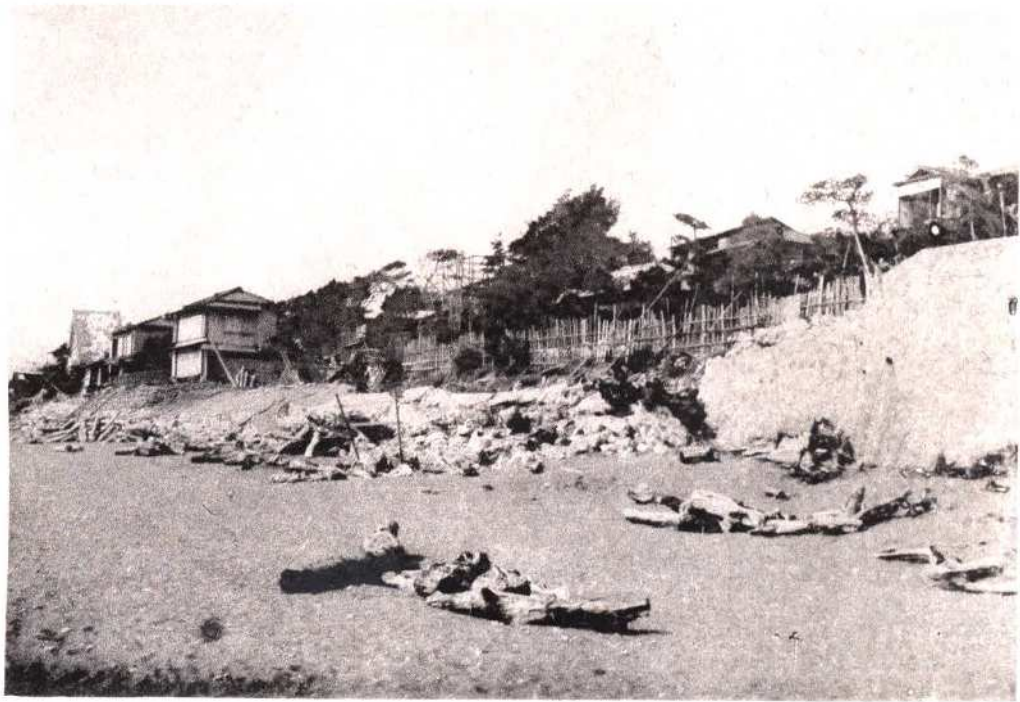
平塚相模紡績會社の惨状



大 山 町 の 惨 状



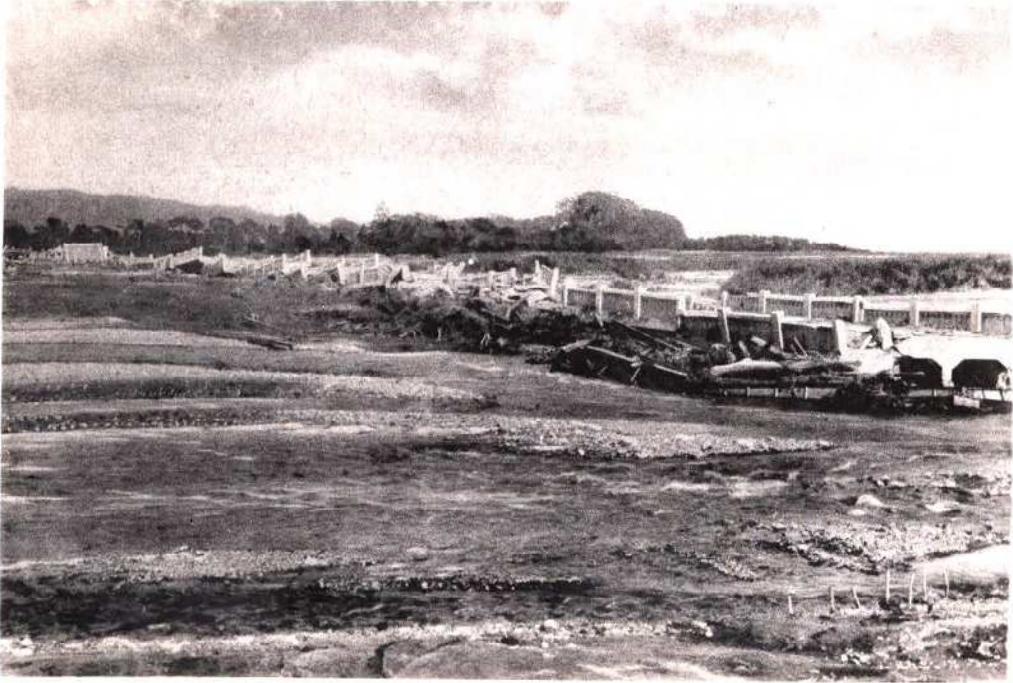
松 田 町 松 田 停 車 場 附 近



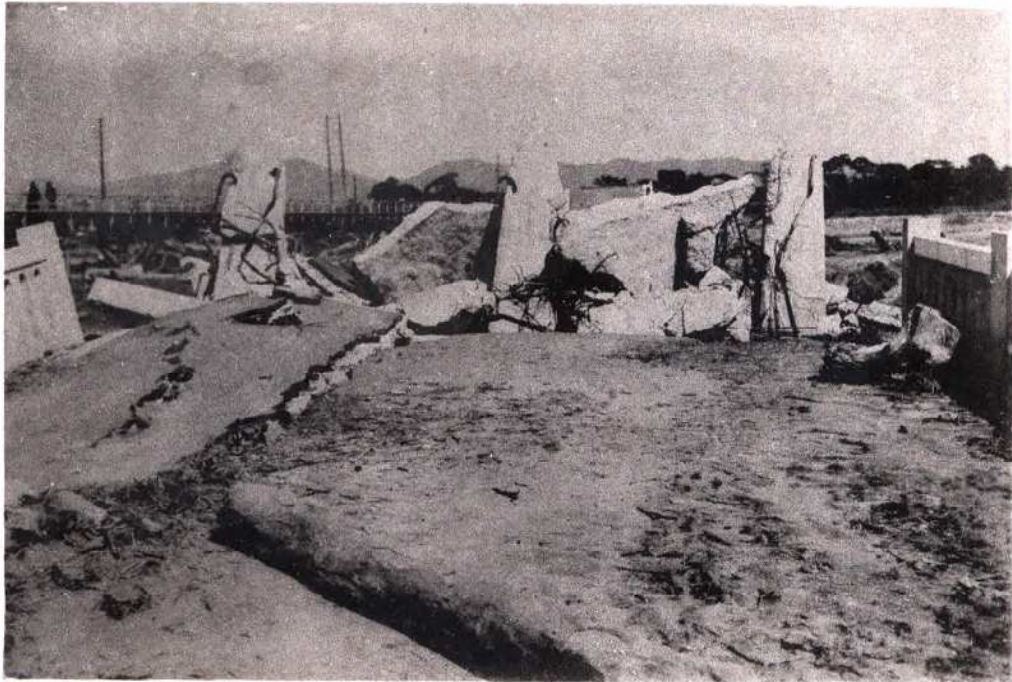
國府津沿岸の被害



酒匂川堤防の陥落



(一) 害被の橋勾酒道國號一



(二) 害被の橋勾酒道國號一



小田原山角町通り惨状



小田原幸町鐘樓倒壊



路鐵るめ歪る至に川早りよ町原田小



景光の掘發家人落部村川府根るせ没埋



箱根登山電車橋梁の被害



塔澤地内一號國道の閉塞



元箱根富士見ホテルの被害



湯本村内地一號國道の遺蹟

足柄上郡三保村玄倉御料林崩壊の状景



眞鶴町に於ける急設ラバツク



所張出濱横局務事護救災震時臨
(影撮日三十月二十年二十正大)



館事領假國米のり張幕天



啓行院病字十赤濱横下陸后皇



(影撮日三十月二十年二十正大) 付受受拜金賜下御所役市濱横



院病時臨縣川奈神



庫倉立組贈寄社字十赤國米



横浜中央職業紹介所



横浜公園簡易浴場